

平成27年度経営評価委員による年度末評価

○：よい点 ◇：期待・継続の要望 □：改善点・助言

1 平成27年度事業についての意見・感想

<p>〈経営全般〉 〈全所体制での取組〉 〈連携〉</p>	<p>○教員が研修を受けやすくするために、様々な研修体制の工夫を凝らし、さらには喫緊の課題に対応する研修内容を取り入れるなど、積極的に学校の支援・指導に当たってもらっていることに感謝したい。</p> <p>○研究・研修・相談の3本柱の諸活動において、そのミッションを意識したしっかりした取組を行っているとは高く評価する。</p> <p>○本県教育の喫緊の課題である小・中・高一貫した「確かな学力」の育成に向け、探究型学習の推進について精力的な取組をしてもらい、本県教育における確かな前進をみることができたと感じている。</p> <p>○国の教育改革の動向を踏まえながら、昨年度の「探究型学習」理論構築を踏まえ、推進協力校の実践について教育事務所とともに丁寧に指導してもらったこと、また、教育事務所や市町村、学校単位の研修会に積極的に出向き、「探究型学習」の周知に努めてもらったことで、今年度は、県内教職員の「探究型学習」への理解が進み、実践への意欲が高まった一年だったと考える。県教育センター、教育事務所、義務教育課がそれぞれの役割を分担しながら、連携して取り組んできた成果だと、改めて感謝したい。</p> <p>○◇山形県教育界のシンクタンクとして、研究、実践ともによく取り組んでいると考える。特に、様々な業務が増え、所長・副所長・課長・主任等、マネジメントがたいへんと思うが、よろしく願いたい。</p> <p>○◇本県の喫緊の課題を的確に捉え、探究型学習、いじめ防止・対策支援プログラム、教育の情報化、特別支援教育に係る学校ニーズの対応等のテーマを設定して、研修講座設定していることはありがたい。</p> <p>□高校と小・中学校の探究型学習は、発達段階から考えて当然のことだが、少し違うように思われる。区別して発信してはどうか。</p>
<p>〈研修事業〉</p>	<p>○すべての講座でたいへんよい評価であり、企画運営を担当する指導主事に感謝したい。一方、D評価の1名が気になる。その1名の周辺に予想されることがあれば、隠れたニーズとして講座の何かを変える必要があるのではないかと。</p> <p>○◇初任者研修等について連絡協議会や校長会等でお願いしたことが、次年度の実施要領に反映されており、感謝したい。これからも学校のやりにくさをできるだけ解消して、事業が形骸化することなく内実を伴った研修として発展することを望む。</p> <p>□講座アンケートの結果が、A評価よりB評価の多かった講座の内容について、どのようなものだったのか気になった。</p> <p>□予定定員を大きく上回っている講座は、「201番の授業改善『協調学習』」、「202番の全国学テ算数数学」、「206番の英語」、「208番の道徳」、「211番の特支教育」である。今、学校現場でたいへん不安に思っていたり、困っていたりすることに結びついていると考える。「216番の管理職の危機対応」もかなり多い。「もし学校で重大なことがあったら」と考えると是非研修したいという気持ちの表れと思う。管内の校長・教頭に聞いても、「こういうことはどこも教えてくれない」、「こういう研修はありがたい」という意見をもらっている。</p>
<p>〈支援事業〉 〈相談事業〉</p>	<p>○◇探究型学習（アクティブ・ラーニング）について、夏季休業中の校内研修会で、県教育センター指導主事に指導をお願いした。本校の研究を進める上でたいへん参考になり、有意義な内容であった。今後とも、出前講座のさらなる充実をお願いしたい。</p> <p>○◇出前サポート事業での幅の広い対応に感謝したい。県立学校により近い教育行政の機関として、今後もよろしく願いたい。</p>

	<p>○出前サポートも、学校にとってたいへんありがたい内容である。</p> <p>◇出前サポートなどのカリキュラムサポート授業については 26 年度に比べ実施状況が減少しているが、学校からのニーズは相変わらず高いと考えており、来年度以降も継続した取組をお願いしたい。</p>
〈研究事業〉	<p>○◇これまでも学校が抱える喫緊の課題に対する研究・研修事業を行う中、今年度は特に大きな施策となっている「探究型学習」に関する研究事業を担ってもらい感謝している。教員も関心の高いテーマであり、校種を超えた様々な研究を行いながら、本県教育をリードする大きな成果が出てくることを期待したい。</p> <p>○「いじめ防止・対策支援プログラムの検討・作成」については、予算が削減された中であって、昨年度からの継続研究を行うことで各校への周知も進んだと考えている。</p>

2 平成28年度への取組についての意見・感想

<p>〈経営全般〉</p> <p>〈全所体制での取組〉</p>	<p>□探究型学習推進協力校の今年度の取組が、県内各中学校にも周知され、協力校だけでなく全ての中学校でも山形ならではの探究型学習が実践推進されるよう、指導をお願いしたい。</p>
〈研修事業〉	<p>◇28年度も、教育現場や社会のニーズに対応した事業の推進を期待する。</p> <p>□前年度のうちに次年度の研修や講座の内容等の一覧表があると、各学校において計画を立てるときに役立つと思う。(名称、内容、対象、悉皆かどうかなど。)</p> <p>□研修講座の受講者数やアンケートから、改めて「探究型学習」と特別支援教育へのニーズの高さがうかがえる。両者とも、教職員への理解が進んだ中での、今後の研修講座の内容について、実態を踏まえながら、義務教育課、教育事務所とも連携しながら考えてほしい。</p> <p>□新規採用教員研修の日数を変更(縮小)し、いよいよ2年次研修が行われるが、その実施に当たっては今年度実施した研修の評価を踏まえたものとする必要がある。まずは、今年度1年間の評価(日数、内容等)をしっかりと行い、効果的な運用が図られるようお願いしたい。</p> <p>□研修体系そのものについての見直しが必要と思われる。10年経験者研修以降の研修のあり方などについて検討をお願いしたい。</p> <p>□受講者が多い講座は、今、学校が本当に必要としている講座である。是非、回数を多くしたり、庄内の先生も参加しやすい会場を設定したりして、学校の要望(需要)に答えてほしい。</p> <p>□小中学校は教員の半分が50代という状態である。50代も実際教壇に立ち、子どもたちに指導しているわけなので、日々の資質向上は不可欠と考える。しかし、50代の教員が研修に行き勉強してみようという状況にはなっていない。是非50代が「行ってみようかな」と思う、魅力的で参加しやすい研修をお願いしたい。</p> <p>例:「50代だからできる探究型学習 ～工夫でかわるベテランの味～」等</p> <p>□中央講師を招聘しての研修等については、対象を学校旅費対応の希望者にも広げ、参加人数を見てからスペースを考えるようにできないか。</p>

3 県教育センターへの期待や要望

<p>〈経営全般〉</p> <p>〈全所体制での取組〉</p> <p>〈連携〉</p>	<p>◇いつも工夫と改善が行われ、研修者や利用者、教育現場にとって身近な機関として定着することを期待する。</p> <p>◇□教員の世代交代が進む中であって、特に若手教員の指導力を高めていくために、積極的に研修の機会を設ける必要があると感じている。本県が引き続き教育県であり続けるために、これからも教育センターが研修や研究の中核となり、教員の指導</p>
---	---

	<p>力向上に向けた先導的な役割を担ってほしい。</p> <p>□アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、道徳教育の充実、小中高の接続を意識した外国語（英語）教育の充実、ICTを利活用した授業力の育成、特別支援教育の知識・技能の習得など、新たな教育課題に対応した研修内容と方法の充実。</p> <p>□今後とも、県教育センター、義務教育課、教育事務所それぞれの役割を明確にしながら分担し、かつ、それを踏まえて円滑に連携していくことが重要だと考える。</p>
<p><研修事業></p>	<p>○アンケートについては、すばらしい評価で内容の充実ぶりがうかがえる。ただし、すばらしいことしかわからない。記名で遠慮が出ることも考えられる。改善のヒントのためなら、無記名のほうがいろいろな意見が出るのではないかと。</p> <p>□多岐にわたり興味深い講座であるが、申込期限が年度初めとなり、学校のスタートとして慌ただしい時期と重なり、研修者と講座内容を決定する時間の確保が困難な点がある。前年の後半時期に、来年度の研修予定の希望を募っていくのは、難しいことだろうか。</p> <p>□初任研から、2年目、3年目の希望による研修が少しずつ位置付けられることは、今後、初任者が増加していく中で、重要になってくると思われる。5年目くらいまで、自己の課題解決に向けた選択研修が可能になれば、教職員の資質向上につながると思う。ただし、研修に出す学校内のサポート体制を学校のみでなく、県として検討していく必要がある。</p> <p>□今後、大量初任者時代に入っていくに当たり、採用試験合格者対象の、新任前の研修、スクールサポートのようなイメージの研修を考えていく必要があるのではないだろうか。</p> <p>□教員経験年数に応じた研修があるが、10年で止まってしまう印象が否めない。指導分野だけでなく、学校経営（校務分掌）にかかわる講座等の新設により、中堅層に経営参画の視点から働きかける魅力ある研修の必要性を感じる。</p> <p>□研修の充実及び学校や初任者本人の負担軽減のため、初任者研修を3年間で行ってはいかがか。1年目は教師としての心構えや授業の基本的な進め方、教科についての研修を中心に、2年目、3年目は、特別活動や道徳、総合についての研修、生徒指導や教育相談、保護者対応、情報倫理など、担任を経験してからこそ必要性や重要性を実感しながら進められる研修を実施していくほうがより実質的であり、有効なのではないか。また、研修計画作成事務のスリム化については、さらなる検討をしてほしい。（例えば、初任研指導教員が連絡会で、計画書の作成だけでなく、点検まで行うなど。）</p> <p>□経験者研修の該当者を把握するシステムを強化する必要がある。現在は、各校の聞き取りによる自己申告制になっているが、行政側で該当者をリストアップすることはできないか。（産休や特休等をとった他管からの転入者などの把握が抜けてしまう場合がある。）</p> <p>□研修講座の講師の内諾を、直接該当校の校長にセンターから行ってもらえると、事務のスリム化が図られる。（講座についての詳しい内容や講師としての選出意図などについて、直接説明してもらったほうがわかりやすく、事務的な手間が省ける。）</p>
<p><特別支援></p>	<p>◇特別支援教育制度が19年4月に始まり、10年を迎える。「必要な子どもへ必要な支援を」という原点の普及啓発を、10年を期に再度担当者全体で全ての学校に行う必要を感じる。センターの研修のちょっとした時間の活用でできることもあると思う。</p>
<p><研究事業></p>	<p>○「協調学習」実践ハンドブックはたいへんわかりやすく、いつも手元においている。</p> <p>□学力向上に向けた小中高を貫く実践研究は、これまで本県で手がけたことのない大きなテーマ（課題）となっているが、校種間の垣根を越え、それぞれが連携することで大きな成果を期待したい。</p>

<p>〈その他〉</p>	<p>□研究・研修・相談の3本の柱を支えるのが、「情報源」としてのセンターであると考ええる。まずはその手がかりとしてセンターが有する知的資源の公開に取り組むことはいかがが。具体的には、「山形教育」のバックナンバーのPDF版での公開（名称案「山形教育アーカイブズ」）を提案する。</p> <p>□教員研修体系の図解に、わかりにくさがある。この図解で、例えば初任研で初任者に対し、「あなた方は、ここにいるので、この内容です。」というような説明をしていない（使っていない）ので、わかりにくさがわからないのではないかと思う。指導主事が自分の担当する講座の受講者に説明してみるなどして、わかりにくさを改善してほしい。</p> <p>□山形県教育センター経営評価委員に保護者は必要か。必要であれば、保護者からどんな情報が必要か、もう少し明確にしてほしい。</p>
--------------	---